

かしの木

第51号

2013年1月号

発行 さくらまち高齢者福祉事業
かしの木編集委員会

〒184-0005

東京都小金井市桜町1-2-24

電話 042-381-1234

『2013年を迎えて』

桜町聖ヨハネホーム
園長 藤井 律治

御子イエス様のご降誕と新年のお慶びを申し上げます。

昨年一年の皆様からのご支援とご協力に深く感謝しお礼を申し上げます。また新しい年も、ヨハネホーム並びに高齢者センターをどうぞ宜しくお願いいたします。

昨年のヨハネ会高齢福祉部門は、4月の介護保険報酬改定に伴い各施設とも実質減収の厳しい運営の一年となりました。センター部門（通所介護）では、これまでのサービス利用時間では運営ができないほどに報酬単価を減額されたため、それまで皆様に慣れ親しんでいただいた利用時間を夕方5時近くまで延長せざるを得ませんでした。主任・副主任と関係職員が知恵を出し合い準備し、ご利用者様やご家族の皆様にご理解を頂いた上で、6月よりサービス提供時間の延長を実施しました。所定労働時間が8時間のところ、7時間以上のサービス提供なので、送迎や記録や様々な準備を含めると対応は相当厳しい状況が続いています。経営層も2月に介護報酬改定の内容を把握した頃より準備に入り、毎月の職員会議で取り上げた上で、①日勤時間を8時45分から17時45分の8時間（勤務時間）に変更、②完全週休2日制導入と有給休暇時間取得を導入、③給与締切の是正変更、④勤務時間帯の複数導入等の就業規則及び給与規程を見直しもして参りました。

ヨハネホームでは、開設以来初めてとなる大幅なご利用者様の生活スペースの「すみわけ」を実施いたしました。これは、身体介護や医療的なケアが中心の方と認知症の症状などの為に個別の対

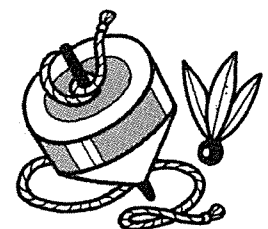
応が必要な方などが混在するフロア状況から、少しでもご利用者様が安心して安全に生活できる為に、介護部が中心となり約3年前から計画し施設全体で取り組み実施したものです。厳しい介護現場で、看取介護などある中、新規入所のスピードも進めており職員は大変であったろうと思います。その中でご利用者様の日頃の生活を身近で見ている職員が何とかご利用者様の生活の改善（大切にされていると思われるケア）をしたいという思いと気持ちは管理者から見ても尊く思われ、計画実現を仲間と推進する力に希望も感じました。開設26年経過し古い特別養護老人ホームとなりましたが、気持ちのある職員層が存在するのはこれからも大きな力となります。

今、私たちは、自分たちが何の土台の上に立ち仕事をしているのか…、繰り返し、基本である理念（立っている土台）に立ち帰ることが大切と考えています。

理念は、一言で言えば『キリストの愛の精神』ですが、その実践は、『笑顔』『明るさ』『優しさ』『丁寧さ』『言葉かけ』『まなざし』などに表れます。

クリスチャンであってもなくても私たち皆ができる実践可能なものです。実際に私は、この実践の光景をホームやセンターの現場でよく見かけます。

多くの皆様が社会福祉法人 聖ヨハネ会を支援下さっているのはこの事を感じて下さっているからだと思います。立っている土台を意識し、私たちヨハネ会高齢福祉部門は、新しい年も桜町病院とヨハネ会障害福祉部門と一緒にヨハネ会として一つを目指してがんばっていきたいと思っています。



明けまして
おめでとうございます

今年も、よろしくお願い申し上げます



最終ステージをどこで迎えるか

— 家族の最期を考える — 2012.9.8

『家族会勉強会を終えて』

相談部主任 三ヶ部 女久美

9月8日家族会第1回勉強会が行われ、37名のご家族が出席してくださいました。

ホームでは、毎年20名以上の方々が天国へと旅立って行かれます。ひとりひとりのお別れは、誰にとってもただ一度のものであり、遺されていくご家族にとっても、その後の生を支える力となったり励ましや慰めになることが多くあります。

私たちは利用者の方々との生活の中で「今しかない」と実感させられることがとても多いのです。ホームにお迎えした時から、利用者の方には、より良き「今」を過ごしていただけるようお手伝いするとともに、このホームの別名である「天国の待合室」としての生活もホームの重要な使命としてとらえております。

誰にとっても避けられない死を、ヨハネホームはどのように考え、ご家族におかれては、それぞれの局面でどんな選り求められるのか、私たちはそれをどのように手伝わさせていただきたいのかを、ご家族の皆様と分かち合いたく今回の勉強会開催の運びとなりました。

勉強会のプログラムは、最初にヨハネホームにおける生と死のとりえ方、その礎となる「人は価値あるかけがえのない存在であるという人間観」について高齢福祉部門顧問であるシスター相松か



ご家族・地域の

桜町聖ヨハネホームでは、昨年9月ご家族の皆様とともに、「終末期」についての勉強会を開きました。ホームで行う勉強会について、皆様のご意見、ご希望がございましたら、お寄せ下さい。

らお話ししました。人の命は単に肉体の死をもって終わるものではなく、死を通過して永遠の生命へと招かれていること、どんな状態であっても人格をもった尊厳ある存在であることをわきまえ、愛と尊敬をもって関わっていくことが大切であることなどが話されました。

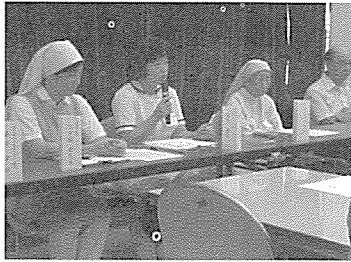
次にホーム医師である渡邊先生から、加齢とともに起こる身体的症状と、その対応についてお話いただきました。誤嚥性肺炎、胃ろうについてもお話があり、ご家族としては重大な選択を迫られる場面でもあり、皆様がわが事として考えながら真剣に聴いてくださいました。また、日々ご利用者の方々との身近に接している看護師、生活相談員からも具体的なエピソードを交えて、これまで旅立った方々の歩みと、職員もまた利用者ひとりひとりの生と死に密接に関わる中で多くの恵みを受けていることを分かち合わせていただきました。

勉強会終了後には、多くの方がアンケートに答えてくださり、それらは今後のケアへと生かしていきたいと考えております。

前月に行われました慰霊祭後の茶話会では、前年にホームから旅立たれた皆様のご家族同士、職員が「同窓会の気分がする」と、お互いの思い出を涙と笑いで話され、温かな希望に満ちたひとときを過ごすことができました。

ここは「今」を一緒に生きている者どうし、世代や立場を超えてつながっていることを感じる場でもあり、お互いにいつの間にか親しみを感じ、支え合いを感じる場でもあることを教えられます。

病院での積極的な治療を望まれる方、苦痛を取り除く以外は自然な流れに任せて最後までホームでの生活を送ることを望まれる方、それぞれのご希望を尊重し、迷いや悩みも分け合いながらこれからも歩みを共にしていきたいと考えております。



皆様とともに.....①

桜町高齢福祉部門では、小金井市からの委託を受け地域支援事業に取り組んでいます。本町高齢者在宅サービスセンターでは、家族介護継続支援や食の自立支援事業など地域に向けた様々な事業を展開しております。その中から、今回は平成24年度に開催された家族介護教室の様相を紹介したいと思います。

小金井市家族介護教室 『アロマセラピーで介護者のこころをいたわる』

平成24年9月29日(土)に桜町聖ヨハネホーム集会室にて、家族介護教室を開催しました。家族介護教室は、小金井市が行う地域支援事業(任意事業)です。市内を南北に分け、各区域にある高齢者福祉施設のうち3施設が委託を受け行っております。

教室のテーマは施設間で重複しない様、市の方で調整を行い、様々なテーマで開催されています。今回、本町高齢者在宅サービスセンターではアロマセラピーをテーマにし、介護者のこころのケアを行うのと同時に、介護場面に活かす方法も習得してもらうことを目的として教室の開催を企画しました。

『アロマセラピーとは・・・』

アロマセラピーは、ストレス解消や病気の予防、病後のケアなどに精油とその香りを役立てる民間療法です。ラベンダーやブルボンゼラニウムなどの植物から抽出された天然成分である精油には、その植物によって鎮静作用や殺菌作用、肌トラブルの緩和、空気感染予防など様々な効果があるそうです。今回の教室では、これらの精油を効果的に使用する方法を学びました。



『アロマセラピーを介護に活かす』

アロマセラピーを介護に活かす方法として、まず褥瘡予防が挙げられていました。肌トラブルに効果のある精油と植物油をブレンドし、肌のマッサージを行うことで血行促進と肌のケアが行われるとのことでした。また手浴や足浴に肌ケアの精油を数滴入れることも良いとのことでした。その他、空気感染予防に効果のある精油をティッシュに含ませ、ごみ箱に入れておくことで部屋の香りが良くなるのと同時に風邪予防にもつながる効果があるとのことのお話もありました。



講師 大場 直緒さん
NPO法人日本アロマセラピー活動サポートセンター 代表理事
乃木坂グリーンハウス アロマセラピスト養成校 校長
英国IFA認定アロマセラピスト
英国IFA認定アロマタッチプラクティショナーコース 認定講師

『ブレンド実習を行いました』

ブレンド実習に入ると、参加者の皆さんの間で自然と会話が弾み、交流が生まれました。講義を聴くだけでなく、香りを実際に嗅ぎ、体感すると皆さん各々の感想を持たれるので教室の雰囲気は一層和やかに良くなっていました。また、互いにマッサージをし合うといった講義に入ると、お互いの距離感も縮まり、いつの間にか笑顔の絶えない雰囲気になっていました。このようにアロマの良い香りと笑顔に包まれた姿を見て、アロマセラピーには介護者のこころを癒す効果があるのだと実感することが出来ました。是非、皆さんも取り入れてみてはいかがでしょうか？

今回、講座の依頼を快く承諾して下さったNPO法人日本アロマセラピー活動サポートセンター様には、この場を借りて改めて感謝を述べたいと思います。なお、興味のある方は以下のHPアドレスからお問合せ下さい。また、この教室の様子は本町センターのHP (<http://www.seiyohanekai.or.jp/honcho-center/index.html>)でも紹介しておりますので、是非チェックしてみてください。

NPO法人日本アロマセラピー活動サポートセンター
Tel 03-3470-5318
HPアドレス <http://www.npo-aroma.or.jp>

ご家族・地域の皆様とともに.....②



小金井きた地域包括支援センターでは、『介護予防キャラバン』と銘打って、職員・スタッフが地域に飛び出し、地域で暮らす高齢者向けに、介護予防に関する情報提供等を行なう場を設けています。これまで、栄養・運動・脳トレなど、テーマを変えながら、梶野町・緑町・本町・桜町・・・と、不定期で年に数回ずつ行なってきました。座学もありますが、時には音楽を聴いたり、絵を描いてみたりと、楽しみながら簡単に介護予防ができるような内容を心がけながら実施しています。

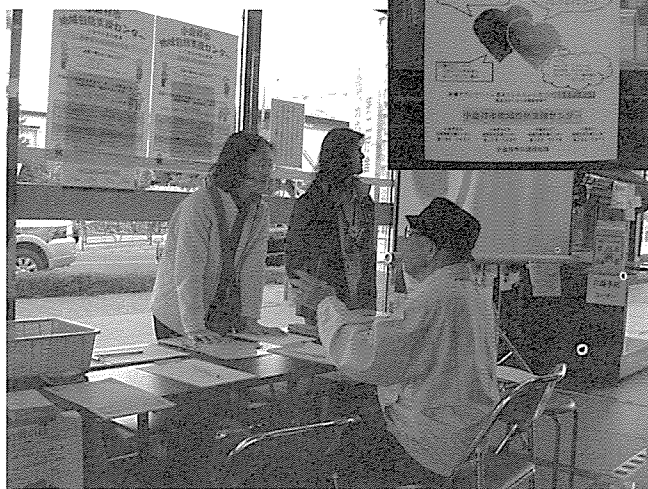
も熱心に聞いていらっしゃいました。

介護予防キャラバンのご案内は市報で行なっています。興味を持たれたご高齢の方がいらっしゃいましたら、是非お声かけください。

「介護予防キャラバン」

今回は9/26に桜町で行ないましたキャラバン『健康の秘訣は足元から』の様相をご紹介します。この日は、秋の外出をテーマとし、作業療法士を招き、歩き方や靴の選び方を学びました。

足の上がり方を見ると、実は高齢者も若い人と大差ないこと、靴の形によって転倒の危険度が減ることなど、皆さん表情豊かに、様々な話をとて



ことばの花束

気配りの心のセンス

誰しもが美しくありたいと思う。ただし、塗ったり、染めたり、着飾ったりの類の美しさではない。江戸時代の美しい女性の条件は、そこはかとなく奥ゆかしい佇まいに美しさを感じるということで、単にキレイというのではなく、控えめな気品がにじみ出る品性の問題でしょう。

美しい私を培うために、電車に乗った時のマナーは、車内での化粧直しはタブーです。ぜひ改めてほしいですね。車内でのしゃべりは小さな声で、マナー美人ということではないのですが、人様に礼儀を欠くことのないように、大切なのは、その場にふさわしい気配りの届いた心のセンスなのです。

(sr 相松幸子)

今後の予定

- ヨハネホーム -
 - 1月 1日 新年挨拶会
 - 1月 14日 鏡開き
 - 2月 3日 節分 豆まき
 - 3月 3日 ひな祭り
- 桜町センター -
 - 1月 新年会 (デイサービス)
 - 1月 男の料理教室 (5回実施・地域支援事業)
 - 1月 24日 介護予防相談会
- 本町センター -
 - 1月 4日 新年会
 - 1月 10日 信愛保育園交流会



編集後記

平成24年が終わり、皆様からのご支援とご協力により、本誌も新しい年を無事に迎える事が出来ました。改めて深く感謝しお礼を申し上げます。昨年1年は介護保険制度の改正から始まり、さくらまち高齢者福祉事業における様々な取り組みを特集しました。今後も読者の皆様にとって有益な情報となるように努めるとともに、現場における楽しい雰囲気も伝えていきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。(T. Y)

編集委員長 中條 洋子 (桜町聖ヨハネホーム)
 編集委員 加藤 和野 (桜町センター)
 編集委員 吉田 貴夫 (本町センター)